

文献複写受付 <LA0092691286> 受付番号: 15198

OMLNM:OCLC ARIEL AMLNM:京大
OMLID:OCLC PRMT:9111 受付日: 2003/01/10
ONO: ISO 私費
BIB: Syukyokai

VOLNO:
YEAR: 1915
PAGE:
ARTCL: Imazu Kougaku: Shingyozenji no Jiseki oyobi sono Kyougi

HMLID: PA002611 京大 LOC:
CLN: RGTN:
LDF:
HOLLC:

[CMNT]
20030110 PAYMENT=IFM / NOTE=OBEGROUP or individual reciprocal
FAX/ARIEL: (413) 585-4485 ARIEL: 131.229.62.117
EMAIL:snnill@smith.edu / MAX-COST=US

HML: CLN:
RGTN:
LDF:

所蔵典拠: 書誌典拠: <TN:46448>
依頼館住所: ILL NEILSON LIB (SNN)/NEILSON DR./SMITH COLLEGE/NORTHAMPTON MA
担当部局: 担当者:

TEL: 内線: FAX:
基本料: 形・大きさ:
枚数: 単価: 申込者: Hubbard, Jamie
小計: 所属:
送料: 料金徴収: 借用部局:
合計: 領収書NO: 借用日:

ILL
NEILSON
LIB (SNN)/NEILSON DR./SMITH COLLEGE/NORTHAMPTON MA

<<複写物在中>>

<LA0092691286> ODATE: 2003/01/10
OMLNM:OCLC ONO: ISO 私費 PRMT:9111
BIB: Syukyokai

VOLNO: YEAR: 1915 PAGE:
ARTCL: Imazu Kougaku: Shingyozenji no Jiseki oyobi sono Kyougi

枚数: 単価: 形・大きさ: 基本料:
小計: 申込者: Hubbard, Jamie
送料: 所属:
合計: 領収書NO:

[CMNT]
20030110 PAYMENT=IFM / NOTE=OBEGROUP or individual reciprocal
FAX/ARIEL: (413) 585-4485 ARIEL: 131.229.62.117 EMAIL:snnill@smith.edu
/ MAX-COST=US

ANO: 15198
受付館住所: 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学 附属図書館 相互利用掛
担当部局: 相互利用掛 担当者: 依頼(飯田) 受付(西川)
TEL: 075-753-2638 FAX: 075-753-2650

せり、氣力漸く衰ふるに及び、乃ち像を請じて房に安置し、臥しながらにして觀をなしたつ、遂ひに化度寺に寂を示せり、春秋五十有四、實に隋の開皇十四年正月四日にして、淨影寺慧遠の示寂に後るゝこと三年、支那佛心宗の第二祖禪師慧可示寂し、天台大師智愷の荊州玉泉寺に法華主義を説きし翌年にして、此の年四月、智愷は玉泉寺に摩訶止觀を説き、翌年正月、嘉祥大師吉藏、大品經疏十卷を著し、智愷は金陵に入りて、晉王の爲めに淨名の疏を撰し、而して十七年十一月示寂せりと云へば、信行の入寂は即ち天台の示寂に先だつこと實に三年前なり。

此の月七日、遺骸を奉じて、終南山鷓鴣の阜に葬る、道俗號泣し、聲京邑を動かすに至りぬ、河東の裴玄證、文を撰して碑を山側に建つ、續高僧傳第拾六習禪篇五十五に依るに、「生自製碑具陳已、死方鷓鴣樹下塔所、即至相寺北巖之前三碑峙列是也」とありて、彼の自叙傳ありしことを示し、又、別有本傳流世、見費節三寶錄と云いて、別部の本傳の流行せしことを説く、此の他、宋高僧傳第十五唐京師西明寺沙門圓照、即ち貞元釋教錄三十卷の著者智昇の傳に見るに、著隋傳法高僧信行禪師碑表集三卷とありて、智昇が信行の傳三卷を草せしことを記せとも、諸傳何れも散佚して傳はらず、誠に惜しむべき也。

上足數名あり、續高僧傳第十八六九に依るに、隋西京慈門道場の沙門釋本濟、姓は宋人、西河介休の人なり、父祖以來世を遁れて王侯に事へず、濟生れて頗る常人に異なる、齒胃の初め心を

僧典に止め、六經三史皆通せざるなし、後、豁然として悟る處あり、乃ち曰はく、斯れ寔に宇宙の糟粕なり、何ぞ人の清識を累はさんやと、是れより歸して佛氏を仰ぎ觀を辭して出家しぬ、年十八、戒定逾々淨く、正業彌々降んなり、新華を服せずして其の愛染を除き、躬ら忍辱を行じ増上慢を摺ひ、博く諸經論に涉り、其の要義に通ぜざるなし、偶々信行禪師あり、新に三階の教義を唱導し歸するもの最も多し、本濟即ち其の名を聞き、欣然として其の門に連なる、信行のために三階集錄を説く其の蘊旨に達せざるなし、嘗つて十種不敬問量論六卷を著す、文旨清靡、頗る誦すべし、濟の名之れより彼の教徒の間に重んぜらる、大業十一年九月十二日、京師の慈門寺に示寂す、春秋五十有四、信行の示寂に後ること二十二年なり、弟子道調、道樹あり、遺骨を奉じて塔を終南山の下に建て、銘を立て、其の徳を表す、濟の弟に善智あり、又、策蓮の上達なり、韻教一乘二十卷を著し、頗る名聲あり、大業三年を以て示寂す、弟子等遺骨を奉じて信行の墓右に葬る。

慧拜の自錄錄詳論釋要に依るに、慈門寺の僧孝慈は又信行の徒なり、幼にして彼の門に投じて、三階佛法を説き、又苦行を修す、恒に曰く、大乘經を讀誦すべからず、讀誦するものは、十方阿鼻地獄に入るべし、急に須らく懺悔すべしと、曾つて岐州に在りて三階佛法を説くに、一優婆夷あり、法華經を持し、又、有緣の士に勸めて法華經を奉持せしむ、孝慈、優婆夷に語ふらく、汝等法華經を持するも、根機に當らざれば當さに地獄に入るべしと、即ち勸めて法華を誦することを捨せしむ、

(38)

數人の優婆夷あり、法華經を棄捨し、禪師の處衆の中に於いて法華經を誦持せるの罪を懺悔す、一日孝慈、衆のために三階佛法を説くに、座下に萬餘の人あり、前きの優婆夷大衆の中に於きて香を燒き願を發して言く、若し某をして法華經を持すると佛意に稱はずんば願くば某をして見身に惡病を着て大衆をして共に法華經を持すれば當さは此の果報を得べしと知らしめむ、又願くば生身に阿鼻地獄に陥ち入りて願くば衆をして同じく見せしめん、若し某にして法華經を持して佛意に稱順せば禪師も亦然るべしと、然るに此の優婆夷の發願の時に當りて、高座の上に在りて集録を唱ふるものを始め、會下の五師等何れも音を失して亦誦すること能はず、これによりて優婆夷再び發心して法華經を誦すること前より懇重を極めしと。

此の外沙門僧靜の如き、慈悲寺の僧神助の如き、何れも皆信行の徒なり、紀傳の詳かなることは今日知るに由なし。

二、信行の著書に就きて

信行禪師の撰述は、歷代三寶紀第十二卷に、對根起行雜錄三十二卷、三階位別集錄三卷、右二部合三十五卷、眞寂寺沙門釋信行撰

と云ひ、大唐內典錄第五卷に、

對根起行雜錄集三十六卷、三階位別錄集四卷、右二部四十卷、眞寂寺沙門釋信行撰

と云ひ、貞元新定釋教目錄第十五卷には、

沙門釋信行、三十五部四十四卷集錄、如下廿八卷及三十卷中說。

とあり、貞元錄は云ふ迄もなく、隋傳法高僧信行禪師碑表集三卷の撰者、西明寺智昇の撰述にして、而も彼れは曾つて再三禁壓せられし信行の著者を再び錄中に集載して奉勅(?)人藏せしめし人なれば、其の信行崇拜者の一人として考へ得べき人なるの故を以て、彼の著を記載するの最も詳密を極むべきは蓋し當然のことたるべきも、麗藏所收の開元錄を驗するに其の第十卷に「如下廿八卷及三十卷中說」と云へるにもかゝはらず全く其の記述なきは最も怪しむべし、案ずるに、建長五年三月、明惠の徒高尾寺高信の撰述に係る高山寺緣起に。

東經藏

奉納一切經附貞元錄

合大小乘經律論及賢聖家等惣一千二百三十八部合五千三百五十一卷

缺本四十四卷、見在五千三百七卷、信行禪師三階佛法等已下四十四卷缺、而相當上八十三年之志

辰、續_三缺本_二滿_一部_三畢、故外華嚴天台法相章疏並眞言善籍佛像_{寺納}之_{目錄別}

とあり、之れ我が國古來傳寫の貞元錄により大藏經には、明かに信行の著全部を含有し、又其の著の目錄中に明記せられしは勿論、當時尙ほ完全に現存せしことを知るに依るべしと史料あり、蓋し

(40)

高麗藏は刊行の當時濫りに目錄中第十八及び第三十卷所收の信行に關する記事全部を抹殺し、且其の全部を接拆排除して藏中に輯録せざりしより、現流貞元錄中には、全く彼れに關する記事を缺如せるものが、最も考ふべし、開元釋教錄第十八三續五に依るに、信行の著三十五部四十四卷の目を出せり、左の如し。

- (1) 三階佛法四卷內典錄云三階別集四卷者即此是
- (2) 十大段明義三卷長房錄云三階別集三卷者即此是
- (3) 根機普藥法二卷大周錄中除此之外、更有三階集錄二卷者謂
- (4) 三十六種對面不識錯法一卷明一切三十六種對面不識錯法
- (5) 右三階法都有四部初是四卷三階次是三卷三階三卷是兩卷三卷後是一卷三階後之三本入集錄數。
- (6) 大乘驗人通行法一卷、
- (7) 對根淺深發菩提心法一卷上如明諸經中四字、
- (8) 對根淺深同異法一卷同前如
- (9) 末法衆生於佛法內廣興所由法一卷上如明諸經中對根淺深八字
- (10) 學求善知識發菩提心法一卷明世間五濁惡世界本法起時十惡衆生煩惱下行於此四種具足人
- (11) 廣明法界衆生根機法一卷廣明起行淺深法

(41)

- (11) 略明法界衆生根機法一卷略明起行淺深法
- (12) 世間出世間兩階人發菩提心法一卷明諸大乘修多羅內世間出世間
- (13) 世間十種惡具足人起心入道法一卷明十種惡具足人內最惡人起心入道者應修善法也
- (14) 行行同異法一卷明世間出世間人當根器所行法
- (15) 當根器所行法一卷明佛滅後第五百五十年以後一切散大願願
- (16) 明善人惡人多少法一卷明佛滅後一千五百
- (17) 就佛法內明一切佛法一切六師外道法一卷就一切佛法內明一切
- (18) 明大乘無盡藏法一卷、
- (19) 明諸經中發願法一卷、
- (20) 略發願法一卷、
- (21) 明人情行品一卷、
- (22) 大衆制法一卷、
- (23) 敬三寶法一卷明諸經中對根起行淺深敬三寶法
- (24) 對根起行法一卷明一切衆生對根上下起行法於內有五段
- (25) 頭陀乞食法一卷頭陀乞食法

信行師範の事蹟及び其教義

(26) 明乞食八門法一卷、

(27) 諸經要集二卷、

(28) 十輪依義立名二卷大方廣十輪經

(29) 十輪略抄一卷大方廣十輪經入一人

(30) 大集月藏分依義立名一卷大集月藏分依義立名

(31) 大集月藏分抄一卷大集月藏分經抄

(32) 月燈經要略一卷、

(33) 迦葉佛藏抄一卷明一切出家人內最惡出家

(34) 廣七階佛名一卷釋尊上卷上善

(35) 略七階佛名一卷釋尊上卷上善

右三階法及雜集錄總三十五部四十四卷隨真寂寺沙門信行撰

長房錄云、總三十五卷、內典錄云、四十一卷、大集月藏分經抄、今刪其不詳其三階集錄云

四十餘卷、不別列部、蓋目今刪其不詳其三階集錄云

義天の新編諸宗教藏總錄義に依るに、

入道出世要法二卷或一卷、

三階集錄四卷

已上信行述

とあり、三階集錄四卷は、開元錄に三階佛法四卷と云へるものにして、歴代三寶紀に三階位別集錄三卷と云い、内典錄に三階別錄集四卷と云へるもの恐らく是れなるべし、入道出世要法二卷或一卷は開元錄を始め諸目錄に全く見へず、思ふに又貞元錄所載以外のものなるべし、此等の書は彼の地に早く斷滅せしと雖も、我が國にては建長の頃まで明かに現存せしを知り得べく、現に乘圓道忠の釋淨土群疑論探要記第六には、

於中、三階佛法四卷、法果衆生根機淺深法一卷僅難得之、其餘三十九卷所未見及也

と云ひ、依りて以て信行の教義の何なるやを考察せり、蓋し高山寺寶庫又は南都北京の諸大寺寶庫には或は其の何れか、現存するやも尙未だ測るべからず、吾人の博雅の士に切に示教を請ふ所以なり。(此の項完)

